

にしっこ 西っ子のみなさんへ 111 9月29日

9月29日、今日は「招き猫の日」です。

前足で人を招く形をした猫の置物である「招き猫」を置いているお店が多いと思いますが、「くる(9)ふ(2)く(9)」の語呂合せからきめられました。

古くから犬や猫はペットとして親しまれてきました。特に猫は農作物や蚕を食べるネズミを駆除するために飼われましたが、養蚕が衰退してからは商売繁盛の縁起物とされています。

縁起物の招き猫には、右手をあげた猫と左手をあげた猫の二種類があることに気づいていましたか？「右手」はお金や福を呼び、「左手」は客などの人を招くとされています。焼き物の産地、愛知県常滑市の業者によると、1997年頃から「右手」の注文が増え始め、元は「右1：左9」の比率であったのが逆転して、現在は「右7：左3」になっているそうです。



東京・世田谷の豪徳寺は、「招き猫発祥の地」といわれるお寺です。

言い伝えによると、彦根藩二代目藩主の井伊直孝が鷹狩りの帰りに豪徳寺の前を通ったところ、お寺の門前にいた猫が手招きをしたそうです。猫に誘われて直孝がお寺に入り休憩をしていると雨が降ってきました。雨に当たらずに休憩ができた直孝は、感謝の気持ちを込めて豪徳寺に多額の寄進をしたと言われています。

また別の話もあり、直孝が豪徳寺の木の下で雨宿りをしていたところ、三毛猫が手招きをしたのでその猫に近づくと、雨宿りをしていた木に雷が落ち、命拾いをしたということです。どちらにしても直孝が猫によって助けられたことから、「招き猫」として崇められたとされています。



豪徳寺に祀られている招き猫は、「招き猫児」と称されていて、お祈りすると吉運に恵まれると言われていて、境内にはたくさんの招き猫が祀られています。

江戸時代初期には、今ほど多く猫はいなかったようで、一般家庭で猫を手に入れることは難しく、猫の絵を描いて店に貼ったのが、招き猫の始まりのようです。